

平成28年12月16日

海外メディア芸術クリエイターの招へいについて ～平成28年度メディア芸術クリエイター育成支援事業～

文化庁では、メディア芸術の振興のため、メディア芸術クリエイター育成支援事業を行っています。このたび、平成28年度の海外からのメディア芸術クリエイター招へい者が決定しましたので、お知らせします。

1. 事業概要

(1) 趣 旨

海外から優れたクリエイターを招へいし、当該クリエイターが我が国に滞在して研修、ワークショップ、創作、展示を行う。

これにより、メディア芸術分野における国際交流を推進するとともに、交流機会を通じて国内クリエイターの育成を図る。

(2) 対 象

若手の優秀なメディア芸術クリエイター 3名

(3) 招へい期間

平成28年12月中旬から平成29年3月中旬までの約90日間

あるいは平成29年1月中旬から平成29年3月中旬までの約50日間

(4) 招へい者（詳細別紙参照）

イヴァン・ヘンリケス Ivan HENRIQUES（男性／ブラジル／38歳）

アレシヤ・シュキナ Olesya SHCHUKINA（女性／ロシア／30歳）

ソウゲン・チュン Sougwen CHUNG（女性／カナダ／31歳）

2. 応募状況

(1) 募集期間 平成28年6月13日から8月19日

(2) 応募件数 55か国 170件

3. 事業内容に関する詳細のお問合せ先

公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）

電話：03-3535-3501 FAX：03-3562-4840 公式サイト：<http://creatorikusei.jp/>

【本件担当】

文化庁文化部芸術文化課

支援推進室長 柏田 昭生（内線 2858）

支援推進室長補佐 鈴木 康彦（内線 2062）

メディア芸術交流係 中臺 正明（内線 2895）

電話：03-5253-4111（代表）

平成 28 年度メディア芸術クリエイター育成支援事業 海外クリエイター招へいプログラムの 招へいクリエイター 3 名を決定しました。

文化庁は、「平成 28 年度メディア芸術クリエイター育成支援事業」での海外クリエイター招へいプログラムの招へいクリエイター 3 名を決定いたしました。

本プログラムは、世界から若手の優秀なクリエイターを東京に招へいし、日本の創造文化に触れながら、作品を制作する機会を提供し、優れた作品の成果を促すとともに、メディア芸術における国際交流を推進し、交流機会を通じた国内クリエイターの育成を図ることを目的としています。

本年度は平成 28 年 6 月 13 日から 8 月 19 日までの期間に、全世界の優秀なクリエイターを対象に募集し、55 カ国から 170 件の応募がありました。書類審査、審査会を経て決定した招へいクリエイターは、平成 28 年 12 月中旬から 3 月中旬まで東京に滞在し、期間中、新作の制作を進めると同時に、研修会、上映会、あるいはスタジオやクリエイターのアトリエ見学、教育機関との交流など、さまざまなプログラムに参加する予定です。



イヴァン・ヘンリケス Ivan HENRIQUES

アレシヤ・シュキナ Olesya SHCHUKINA

ソウゲン・チュン Sougwen CHUNG

■招へいクリエイター（性別／国籍／年齢）※ 年齢は平成 28 年 11 月 10 日時点

イヴァン・ヘンリケス Ivan HENRIQUES

（男性／ブラジル／38 歳）

12 月中旬より約 90 日滞在予定

アレシヤ・シュキナ Olesya SHCHUKINA

（女性／ロシア／30 歳）

1 月中旬より約 50 日滞在予定

ソウゲン・チュン Sougwen CHUNG

（女性／カナダ／31 歳）

1 月中旬より約 50 日滞在予定

問合せ先：公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS） 筋（あざみ）・市毛（いちげ）

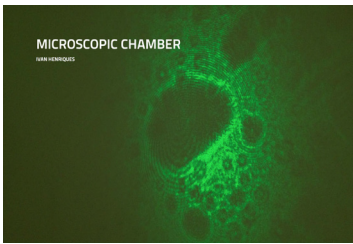
TEL：03-3535-3501 FAX：03-3562-4840 ※受付時間：平日 10 時～18 時

〒104-0061 東京都中央区銀座 1-8-16 銀座アスタービル 3F

■ 招へいクリエイターについて

イヴァン・ヘンリケス Ivan HENRIQUES (男性/ブラジル/38歳)

1978年生まれ。生態系をテーマにさまざまなマルチメディアインスタレーションを手掛けるアーティスト。自然とテクノロジー文化の融合を探求しながら、人間とその他の生命体との新しいコミュニケーション方法を模索している。「自然」はインスピレーションの源であり、かつ、世界の発展における必要不可欠な要素と捉え創作活動を行っている。<http://ivanhenriques.com>



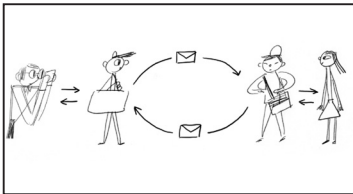
©Ivan Henriques

滞在制作の企画概要

『MICROSCOPIC CHAMBER (マイクロスコピック・チャンバー)』：2013年にニューヨークで参加したバイオアートのレジデンシーで制作したレーザーと水滴の中の生態系を組み合わせた作品のアイデアを生かし、今回は世界の中でも日本が業界のトップを行くホログラム技術を用いた作品を制作する。ホログラムを使って微生物を映し出すことで、周りに存在する目に見えない生態系や環境について知ることができる。

アレスィア・シュキナ Olesya SHCHUKINA (女性/ロシア/30歳)

ロシア生まれ。アニメーション作家、イラストレーター。サンクトペテルブルクの映画テレビ大学およびラ・ブドリエール・アニメーション学校で学び、フランスとロシアを拠点に作品を制作。ドラマとコメディを織り交ぜながら、自らのアイデアを実現するためのメディアとしてアニメーションを用いている。<http://spitsbergenisland.com>



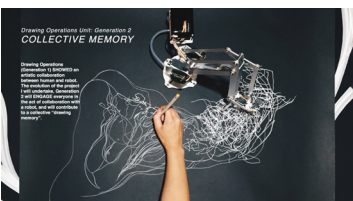
©Olesya SHCHUKINA

滞在制作の企画概要

『L LETTERS (エル・レターズ)』：二人の郵便配達人と、別々の都市に住みラブレターを送り合う一組の男女を中心としたアニメーション作品。二人の郵便配達人はそれぞれ、ある時から手紙を読み始め、彼らの恋愛関係へ関わっていく。次第に手紙は二人の郵便配達人の間だけを行き来することになり、男女は自分たちのあずかり知らぬところで架空の手紙がやりとりされる事態になってしまう。作品のテーマは「真実と嘘、幻想と関係性」について。そして、私たちが何かを信じてすがりたいときに、嘘はどこまで私たちを導いてくれるのかということ。

ソウゲン・チュン Sougwen CHUNG (女性/カナダ/31歳)

カナダ生まれ、中国育ち、ニューヨーク在住。アーティスト、MITメディアラボ客員研究員。人間とコンピュータの相互作用を理解するアプローチとして、手描きによる軌跡と、ロボットによる軌跡について探求している。彼女の作品は、ジュネーブの現代美術館、国立新美術館、ニューミュージアム（ニューヨーク）などで展示されたほか、The New Yorker 誌やトライベッカ映画祭でも紹介されている。<http://sougwen.com>



©Created on the occasion of the exhibition:
NEW INC Showcase at Red Bull Studios New
York July 2015.
Photo: courtesy of Drew Gurian / Red Bull
Content Pool

滞在制作の企画概要

『Drawing Operations Unit: Generation 2, COLLECTIVE MEMORY (ドローイング・オペレーション・ユニット・ジェネレーション・ツー・コレクティブ・メモリー)』：前作「ジェネレーション 1」の発展系として、参加者とロボットが協創することを目的に据えた“ドローイングの記憶”を構築するプロジェクト。古来の描き方や現代におけるドローイングの方法について、ディープ・ラーニングの手法や中立的なアルゴリズムに則って、あらゆるものや人から影響を受けたドローイングを行う。

■ 海外クリエイター招へいプログラム実施内容

□ 研修会

招へいクリエイターが日本で実りある創作活動を行なえるように、本事業アドバイザーとの面談を実施します。招へいクリエイターは作品の制作過程を報告し、アドバイザーが課題点等に対してアドバイスを与えます。

□ 見学

招へいクリエイターが日本の制作現場に触れる機会を設けます。国内のクリエイターのアトリエやスタジオ等を見学するほか、招へいクリエイターの制作やリサーチの必要に応じ、展覧会や研究施設の見学等も行ないます。

□ 交流

国内外のメディア芸術クリエイターとの交流を促進します。関連イベントへ参加する機会や、教育機関にて若手クリエイターに向けた、作品の魅力を紹介する機会を提供します。

□ 成果発表

滞在中に制作した作品の成果発表会を開催します。上映や展示による作品紹介のほか、招へいクリエイター3名がそれぞれ進捗について報告するプレゼンテーションを実施します。

メディア芸術クリエイター育成支援事業とは

文化庁メディア芸術祭において受賞もしくは審査委員会推薦作品に選ばれた若手クリエイターを対象とし、新しい作品の企画を募り、制作費の支援や専門家によるアドバイスの提供等、創作活動を支援するとともに、海外の優れたクリエイターを招へいし国際交流を推進します。 <http://creatorikusei.jp>

平成28年度 アドバイザー／採択企画／招へいクリエイター

アドバイザー： 伊藤 ガビン（編集者／クリエイティブディレクター）
遠藤 雅伸（東京工芸大学芸術学部ゲーム学科教授／日本デジタルゲーム学会副会長）
田中 秀幸（アートディレクター／映像ディレクター）
野村 辰寿（アニメーション作家／多摩美術大学教授）
畠中 実（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員）

採択企画： 『楽器を纏（まと）う』 金箱 淳一・石上 理彩子
『Green』 (仮) 久保 雄太郎
『Animated Painting / Painted Animation』 (仮) 林 俊作
『高次元空間（非ユークリッド空間を含む）における可視化に依らない作品制作』 (仮) 平川 紀道
『映像の彫刻』 (仮) 安本 匡佑
『自転車乗りの少女 ～日本のどこかの町編～』 (仮) 吉開 菜央

招へいクリエイター： イヴァン・ヘンリクス 『MICROSCOPIC CHAMBER』
アレシア・シュキナ 『L LETTERS』
ソウゲン・チュン 『Drawing Operations Unit: Generation 2, COLLECTIVE MEMORY』